特集 1 高等教育機関との連携

AOTSは設立以来、主に産業人材を対象とした人材育成を行ってきましたが、近年は、高等教育機関との連携も深め、産業人材候補生の育成支援にも力を入れています。

パンヤピワット大学(タイ)において「人工知能(AI)」に関するAMEICC寄付講座を開始

2015年11月にクアラルンプールで開催された「ASEAN ビジネス投資サミット」において、日本の安倍首相より、アジアにおいて今後３年間で４万人の人材育成を支援する産業人材の育成構想が発表され、これを受け、日本政府は、日・ASEAN 経済産業協力委員会(以下、AMEICC)に対して、ASEANにおける産業人材育成支援のための予算を拠出しています。

覚書調停式

2018年度、この拠出金を活用した事業として、パンヤピワット大学で「人工知能(AI)」をテーマに、同大学工学部各科の3年生の中から選抜された学生100名を対象に寄付講座を開設し、講師は、AI開発およびビジネスに携わる日系企業やAI研究を行っている日本の大学の専門家らが務めました。12月6日には、１年目の講義の総括を行うとともに、タイ日両国政府の高官や産業界からもご出席いただき基調講演と覚書調停式を行いました。

寄付講座の様子

インド工科大学(コルカタ)とMOU締結

インド・コルカタ同窓会の仲介により、インド工科大学(IIT)カラグプール校と人材育成、研究協力、ビジネス交流等に関する包括的な協力関係を構築するための協力覚書を2019年1月21日に締結しました。

同校は、インドの工科大学法により国立の重点的研究教育機関として位置づけられており、IIT各校の中で最も長い歴史を持ち、Google社のCEOサンダー・ピチャイ氏など、グローバルエリートを輩出する世界的に有名な工科系高等教育機関です。

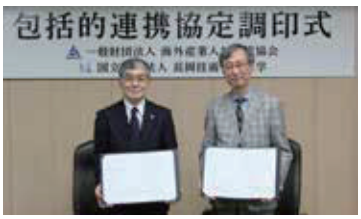
今後、以下の分野で協力していくことで合意しました。

1)IITの学生、研究者に対する都市開発、生産技術、コンピュータ技術、経営管理、品質管理、リーダーシップ等に関する人材育成プログラムの日印両国における実施
2)インド及び周辺国の研究者、産業人材に対する日印両国における人材育成プログラムの実施
3)IITカラクプール校の印日技術研究センター(Indo-Japan Tech. research Centre)の活動に資する協力
4)IITの研究者や学生を含め、インドにおける日本人産業人材を対象にした、イノベーション、起業、人材交流等を目的としたプログラムの実施

長岡技術科学大学とMOU締結

2019年2月26日、国立大学法人長岡技術科学大学と包括的連携協定に関する覚書を締結しました。同校は、他大学に先んじてツイニング・プログラムやダブルディグリープログラムなどの教育プログラムを開拓・実施し、留学生を積極的に受け入れており、また、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、グローバルなフィールドでイノベーションを創出する実践的技術者の養成はもとより、我が国における中小企業、地域企業等のグローバル化に取り組んでいます。

今回の連携により、同校がグローバル化支援を実施する関係企業に対して海外事業展開に関するAOTSの事業利用の機会を提供するほか、講師の相互派遣、AOTS同窓会と同大学同窓生等との交流促進など、双方の知見とネットワークを活かして、今後の活動において相互協力を行っていくことになりました。



包括的連携協定調停式

特集2 人材育成の広がり ーアフリカー

モザンビーク石油炭化水素公社(ENH)の現地人材育成に関する丸紅㈱及びENHとの3者間協力覚書締結 -「日本・アフリカ官民経済フォーラム」(南アフリカ・ヨハネスブルグ)にて-

近年は国内外の様々な企業・機関からAOTSの人材育成への評価や期待の声をいただき、多様化するニーズに応えるための連携・協力の輪が広がっています。

2010年代、モザンビーク北部で発見された巨大天然ガス田ロブマ海底鉱区の開発が始まり、モザンビーク政府は予てよりこのガスの利用手段として①LNG、②Gas-to-Liquid(GTL)、③肥料、④発電プロジェクトの開発を検討していました。このような中で丸紅株式会社は2010年に事業協力覚書をモザンビーク石油炭化水素公社(ENH)等と締結し、現地産業化に資するメタノール事業を推進することになりました。

丸紅㈱とENHは現在共同してメタノール事業の調査・検討を行っており、丸紅㈱は製品・案件に対する現地側の理解を深めるため経済産業省の貿易投資促進事業(AOTS受託、2013年実施)を活用して、現地関係者招聘・インターン派遣にて啓蒙活動を実施してきましたが、この度、ENHから改めて現地人材育成への協力要請があり、AOTSが丸紅㈱およびENHと連携して現地人材育成を進めていくことになりました。

ヨハネスブルグで開催された「日本・アフリカ官民経済フォーラム」においてAOTSも登壇し、世耕経済産業相、南アフリカ貿易産業相の臨席のもと、丸紅㈱およびENHと人材育成に関する3者間協力覚書を手交しました。当覚書に基づき、2019年3月にENHから研修生を招聘し丸紅㈱とともにモザンビーク・キャパシティビルディング・プログラムを実施しました。

本件はAOTSが自主事業として日本企業の資源・インフラ開発に資する現地人材育成を手がけるもので、今後も日系企業の進出が期待されるアフリカ等の新興国において同様の取組を進めて行きたいと考えています。

MOU手交式

ENHからの研修生と在日モザンビーク大使館訪問

エジプト・カイロにて「現場改善の基礎的手法(5S、安全、標準化)」コース開催

2019年2月、技術協力活用型・新興国市場開拓事業(研修・専門家派遣事業)において、エジプト・カイロにて現場改善の基礎的手法(5S、安全、標準化)をテーマとした3日間の研修コースをエジプト同窓会の協力を得て開催しました。

エジプトは北アフリカの中では比較的早い時期に工業化が開始され、基幹産業は歴史のある繊維産業、食品工業であり、そのほか組立を中心とした機械工業等の業種を有しています。エジプト政府の統計によると、GDPに占める製造業の割合は、2015/16年度で16%であり、部門別には第1位になります。

今回、3日間の研修では、製品やサービスの品質や生産性の向上を図ることを目的に、製造現場に限らずに活用できる改善の基礎的手法(①組織での改善文化の育て方、②5S、安全と報連相、③コスト低減とエネルギー負荷の低減手法(MFCA))を取り入れた内容で実施しました。また、当コースにはスーダンからも5名が参加しました。

特集 3 海外拠点間での人材育成

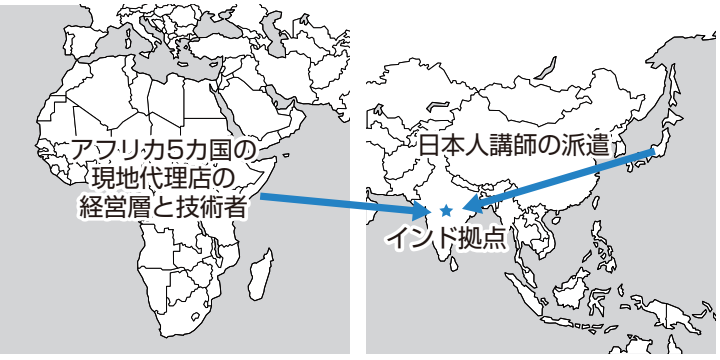
従来、技術移転は日本人専門家を海外現地法人へ派遣して指導する方法、あるいは海外現地法人の管理者・技術者を日本へ受け入れて研修する方法で行われてきましたが、近年では、海外現地法人の技術力向上にともない、従来型の日本をベースにした指導や研修から、現地中核人材が主体となって、日本のものづくりを教える仕組みも始まっています。

インドをアフリカの輸出拠点に～アフリカ空調ビジネス人材育成～

ダイキン工業株式会社は、技術協力活用型・新興国市場開拓事業（研修・専門家派遣事業）の三国型海外研修の制度を活用し、2019年2月4日～8日の5日間、ケニア、ウガンダ、ルワンダ、モーリシャス、タンザニアの5ヵ国から29名をインドに招へい、日本本社から講師を招き、座学と実務の研修を実施しました。

インドで空調販売のNo.1を達成した代理店販売のノウハウをアフリカに普及させるために実施し、アフリカにおけるダイキン販売代理店等の経営者層を来印させ、インドでのブランディング戦略、マーケティング、商品・サービス戦略等の研修が行われました。また並行して空調機の据付やアフターサービスに関わる技術の普及を目的に、販売代理店等の技術者も来印させ、据付およびトラブルシューティング研修も行われました。エアコンの省エネ技術・環境負荷の小さい冷媒の説明から据付、修理対応まで網羅的な研修を行なうことができ、ダイキン、アフリカの販売店双方にとって非常に有益な研修となったようです。アフリカからの参加者からも、「ここまで徹底した長期間の研修は初めてであり、素晴らしい。ダイキンと日本に感謝したい」、「帰国後にダイキンの環境性能や高品質を自国でアピールしていきたい」という声も聞こえました。

インドの成功モデルをアフリカへ横展開すると共に、アフリカの産業発展に資する人材の育成支援につながる案件となりました。



ダイキンインドのニムラナ工場トレーニングセンターにて研修

元タイAOTS研修生がインドネシア工場立上げ支援

平成27年度補正予算 日アセアン経済産業協力委員会(AMEICC)拠出金事業(以下、AMEICC事業)の三国型海外研修では、日系企業が自社の現地中核人材を活用して、ASEAN域内で行う技術指導を支援しています。
当事業の実施は2016年度から始まり3年目を迎えますが、企業から申し込みを受ける三国型海外研修では自動車部品関連の研修の申し込みの大部分がタイからインドネシアへの指導のケースでした。日本本社から技術移転を受けたタイ法人の技術者が、その技術をインドネシアに伝播しています。

金型製作から加工、組立、検査までの一貫生産を行う自動車用安全部品メーカーのカツヤマファインテック株式会社は、当制度を利用し、タイからの専門家をインドネシアで受け入れ、また、インドネシアからタイへの研修生を派遣し技術移転を行いました。タイの製造拠点は、1995年設立と操業の歴史は長く、アユタヤのロジャナ工業団

地に立地しています。1995年採用のタイ拠点創立メンバーは元ＡＯＴＳ研修生で日本語も堪能で、現在はＧＭとなり経営の一画を担っています。

現在、タイで製造する金型は日本の3倍の数を誇り、タイ工場で使う金型は100%内製化しています。インドネシア工場は2014年操業を開始したばかりです。インドネシアでの部品調達の現地化ニーズは高いため、インドネシアと同じ部品を製造しているタイ工場と同等レベルになれるようレベルアップを図るべく、技術指導に三国型海外研修の制度を活用いただきました。

金型　組み付け

タイ人、インドネシア人は業務以外でも楽しく交流

タイ人講師による「5S・改善・生産性向上」「物流管理」コースの実施

AMEICC事業においてAOTS企画の三国型海外研修として、ASEAN国籍の講師をASEAN域内に派遣し、５Ｓ・改善等のテーマのセミナー型集合研修を実施しました。AOTSが現地ニーズに合わせてテーマを設定し、ASEAN国籍の講師を派遣して実施するコースです。2016年度から実施しており、ラオス、カンボジア、ミャンマーの３カ国5都市において「５Ｓ・改善、生産性向上」や「物流管理」のテーマで研修を実施してきました。毎回、定員を超えるお申込みをいただき、2018年度も実施国、実施都市を増やして15コースを開催しました。

一例として、AOTSの姉妹団体でタイにある泰日経済技術新興協会（TPA）からタイ人講師を派遣して実施した５Ｓ・改善、生産性向上コースをご紹介します。コース期間は3日～5日間で、現地の状況に応じて実施期間を設定し、また、いずれのコースにおいても、講義による理論とグループ演習の時間を多く取り入れたコース内容としました。

これまで多くの場合、日本人が講師となり、海外において指導をしてきましたが、三国型海外研修「協会企画型」コースでは、ノウハウを蓄積したタイ人が講師となるため、日本人が教えるのとは様々な点において異なっています。教材の作成の仕方、資料の色使い、動画の使い方、コミカルな映像を用いて参加者を笑わせる、演習の題材を日常生活の身近な例からとってくる上手さ、教室をくまなく歩き回り参加者と双方向コミュニケーションを続けながらの教え方等、講師と参加者の距離が近く、ASEAN国籍の参加者に非常に受け入れやすいものとなっています。

また、ASEAN域内に進出している日系企業は、大都市だけでなく、国境に位置する地方都市で操業している企業も多くあるため、首都以外でもコースを実施しました。過去には、首都以外では、ラオスのサワンナケート、パクセとカンボジアのポイペトで実施し、2018年度も、これら3都市に加え、ミャンマーのティラワ地区、マンダレー、バガンやカンボジアのベトナム側国境にある都市バベットでコースを開催しました。

下記の写真は、タイ国境に接する都市、カンボジアのポイペトで実施した研修風景です。日本資本とカンボジア資本による共同投資によって設立されたSANCOポイペト経済特区には、設備の整った会議室兼研修施設があり、本研修は、この施設を借りて実施しました。

タイ人講師による指導

特集 4 AOTS同窓会の活動

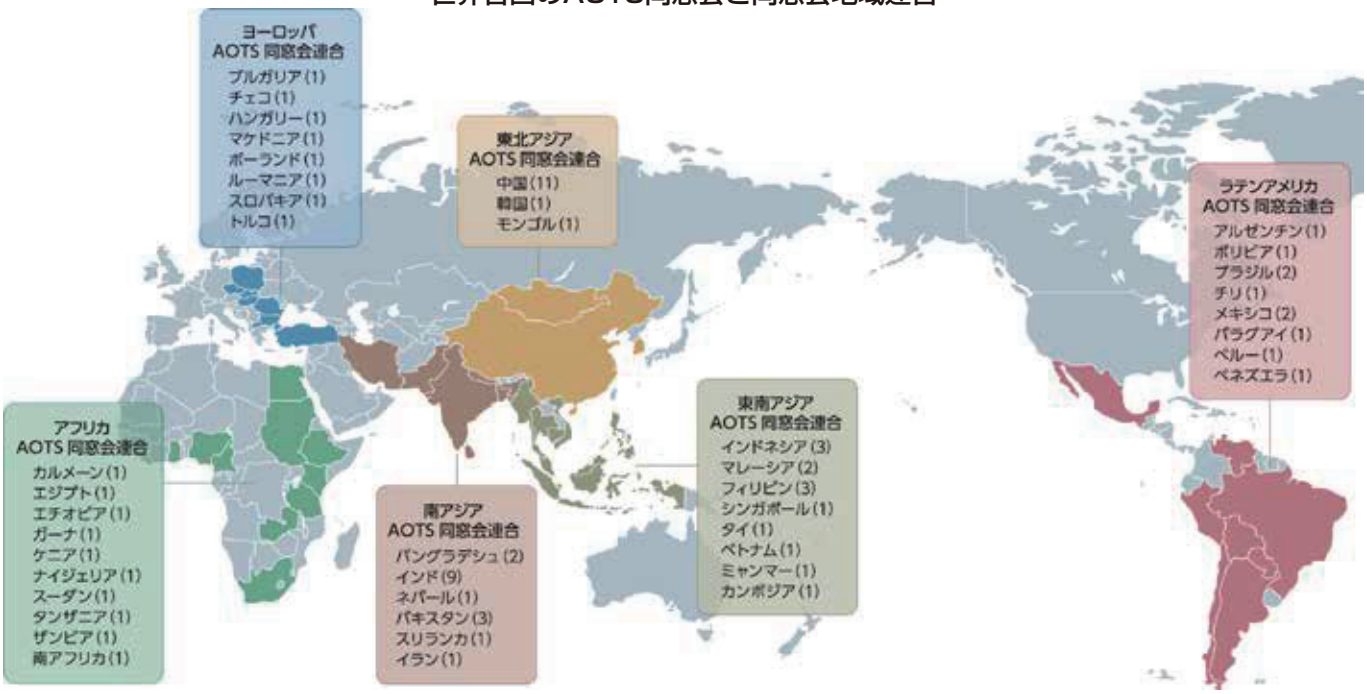
AOTS同窓会とは

AOTS同窓会は、日本で行われた研修の参加者が、帰国後に「AOTS研修」という共通体験をもとに結束し、世界各地で自主的に組織している非営利団体です。AOTS同窓会は現在世界43カ国71カ所に結成されており、人材育成をとおした自国の経済産業の発展と地域社会への貢献とともに、日本や諸外国との友好関係の増進に努めています。

同窓会メンバーの中には、各国の政界、経済界で主要な地位を占める要人も多く、それらネットワークを有する同窓会は、AOTSが日本の産業界のグローバル化を支援していく上でも、重要な役割を果たしています。

単に旧交を温める活動にとどまらず独自の社会貢献活動を続けるAOTS同窓会は内外において非常に評価されており、AOTSの人材育成の成果の証であるとともに、一番の財産でもあります。

世界各国のAOTS同窓会と同窓会地域連合



同窓会の主な活動

❶ 会員の親睦活動
- レクリエーション活動

❷ 同窓会組織の運営
- 会員名簿整備
- 機関誌発行
- AOTS海外事務所・日本在外公館等との協力

❸ 文化・社会活動
- 日本語教室
- 来日前オリエンテーション
- 各種社会奉仕活動

❹ 人材育成・産業振興活動
- AOTSとの協力事業
- 各種機関との人材育成協力推進（研修生募集・推薦、日本人講師派遣による巡回セミナー）

❺ 国際協力活動
- 同窓会間研修生・専門家交換（WNFプログラム）
- 同窓会地域連合会議・同窓会代表者会議参加

同窓会記念式典（ダッカ同窓会、チッタゴン同窓会）

バングラデシュはAOTS同窓会所在国の中でも非常にアクティブな活動を展開している国の一つです。2018年9月ダッカ、チッタゴンの各同窓会の創立記念行事が行われました。

ダッカ同窓会創立50周年記念行事

ダッカ同窓会は現在約2,000人のメンバー数を誇る非常に大きな組織です。約400人の会員が参加し盛大に50周年をお祝いしました。9月15日の記念行事開会式はバングラデシュ首相経済アドバイザーのマシュール・ラーマン氏をはじめとする来賓・関係者にご来場頂き、式典ではバングラデシュ議会議長シリン・シャルミン・チョードリー氏よりビデオレターでのご挨拶を賜りました。また、東海大学綾野克俊名誉教授をお迎えしての品質管理セミナーも実施されました。

15日午後に行われた同窓会役員によるプレゼンテーションでは、同窓会を母体として2012年に設立された日本式マネジメント等の研修実施企業であるBJTI(BANGLADESH-JAPAN TRAINING INSTITUTE)が紹介されました。

閉会式にはトファエル・アーメド商業大臣、在バングラデシュ日本国大使館伊藤毅公使よりご挨拶を賜りました。

チッタゴン同窓会創立30周年記念行事

9月13日の夜、創立30周年記念式典が盛大に開かれました。式典ではムハンマド・ヌルル・イスラーム名誉総領事にご挨拶頂き、インド・デリー同窓会のマン・モハン会長による基調講演が行われました。式典後にはバングラデシュの舞踊、歌が披露され、会食が開かれました。

同じく13日には式典に先駆けて、同窓会役員とチッタゴン管区の企業家６名との政策対話の場が設けられました。各県の抱える問題に関して発表を行い、同窓会役員よりAOTSの人材育成を利用したソリューションの提案が述べられました。

14日は同窓会主催のWNFセミナーが開催されました。スリランカ同窓会が派遣したチャンナ・ラリス氏を講師として迎え「製造業の労働安全」について講義が行われました。

インドネシア・日本の外交関係樹立60周年を祝した記念行事（メダン同窓会、ジャカルタ同窓会）

2018年、インドネシアのメダン・ジャカルタの同窓会はそれぞれインドネシアと日本の外交関係樹立60周年を記念した行事を行いました。

北スマトラ州への投資促進シンポジウム（メダン同窓会）

メダン同窓会では、元メダン同窓会長であるH.T.エリ・ヌラディ北スマトラ州知事を主賓としたシンポジウムを開催しました。北スマトラ州の政府機関・財界・学会・メディアから約30名が招待され、北スマトラ州への投資を促進するための課題や方策が話し合われました。

カイルル・メダン同窓会長、元ジャカルタ同窓会長のイスマジ氏、石井健メダン総領事のご挨拶に続き、ヌラディ知事の州政府の施策についての説明があり、その後は参加者間で活発な議論が交わされました。

「メイキング・インドネシア4.0」に関するシンポジウム（ジャカルタ同窓会）

ジャカルタ同窓会では日尼国交樹立60周年記念イベントとして、第4次産業革命の実現に向けたロードマップ「メイキング・インドネシア4.0」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

マルトノ・ジャカルタ同窓会長、石井正文駐インドネシア大使によるご挨拶の後、基調講演として工業省トニー・シナンベラ事務総長にご登壇いただきました。その後、インドネシアの企業でのインダストリー4.0に対する取組み事例やインドネシア経済を取り巻く環境についてのプレゼンテーションが行われました。

公共空間での５Sの取組み　（ルーマニア同窓会）

2018年6月、ヨーロッパ同窓会連合会議がルーマニアで開催されました。議長国ルーマニアのほか、チェコ、マケドニア、トルコより4カ国7名が参加しました。

会議では、ルーマニア同窓会により国内各都市での「公共5S大会」の取り組みが紹介され、参加者の関心を集めました。5Sの構成要素の一つである清掃活動に力を入れ、街中の公共空間を清掃する取り組みで、ルーマニア同窓会は日本のNPO団体の協力のもと、学校や自治体への5S普及活動を進めています。2011年より9回に渡る取り組みは年々その輪を広げ1,500名を超えるボランティアが参加し、また19のテレビ局で紹介される等マスコミからの注目も集めています。

6月７、8日にはアルバユリアにてルーマニア同窓会ならびに関係団体カイゼン・インスティチュート主催の国際会議「社会発展を導く強力な推進力としてのカイゼン」が開催されました。参加者は日本を含む関係団体の公共5Sの取り組みについて知識を深めたほか、8日は公共5Sに取り組んでいる地元の学校にて学生と共に１時間の清掃活動に参加しました。

ラテンアメリカにおける5S大会（ペルー同窓会・アルゼンチン同窓会）

５S活動の普及を目的にAOTS同窓会は自主的に大会組織委員会を立上げ、ペルーでは2014年から、アルゼンチンでは2016年から全国５S大会を実施しています。

第5回ペルー全国５S大会授賞式

2018年11月7日に日秘文化会館にて授賞式を開催しました。大会の参加団体は製造業、金融業、鉱業、小学校、リマ市役所等15団体におよび様々な業種の企業/団体が５S活動を取り入れているのが特徴です。

授賞式では来賓として2019年1月よりリマ市長に就任したAOTSの元研修生でもあるホルヘ・ムニョス氏、在ペルー日本国大使館高木昌弘公使参事官、ホルヘ・アチャタ労働生産省技術課長からご挨拶を頂きました。ホルヘ・ムニョス氏は、AOTSでの研修が貴重な体験となったことへの感謝とリマ市を綺麗で安全で秩序だった町とするために５S、改善等の進んだ文化から学びリマ市にも取り入れていきたいと述べられました。

3時間におよぶ授賞式では「規律とセルフ・コントロール」をテーマとしたデヴッド・フィッシュマン氏による基調講演に続き、受賞企業の発表とトロフィー授与が行われました。式のはじめに参加企業有志による歌やエールをまじえた応援合戦で会場の雰囲気が盛り上がり、途中で沖縄太鼓の演奏が入るなど、エンタテイメント性に富んだ式となりました。

第3回アルゼンチン全国５S大会授賞式

2018年11月8日にブエノスアイレス証券取引所にて授賞式を開催しました。アルゼンチンの５S大会は、AOTSアルゼンチン同窓会、トヨタ、ホンダ、ヤマハ、JICA、日本アルゼンチン商工会からなる組織委員会により実施されています。今年の大会には、自動車部品、電子機器等の製造業、金融業、統計局等13団体が参加しました。

授賞式では来賓として在アルゼンチン日本国大使館 菱山聡公使参事官、アルゼンチン部品製造協会ラウル・アミル理事長からご挨拶を頂きました。菱山聡公使参事官は、日本の経済発展を支えてきた５S、改善活動がアルゼンチンでも広く導入され発展に寄与していくことの期待が述べられました。

式の最後に５S大会組織委員長のアレハンドロ・マクリ氏は、今年の大会には、ブエノスアイレス市だけでなく地方都市からの参加があったこと、また、製造業だけでなく、サービス業からの参加があり、特に統計局からの参加があったこと挙げ、今後も、アルゼンチン全国へ、公共機関、教育機関等も含め５Sを広げていきたい と抱負を述べ、式を締めくくりました。